

平成二十三年 九月五日

なぜ自主避難しないのか、できないのか

東京電力第一原子力発電所の事故から、早いもので半年が過ぎようとしています。この間、放射性物質から子どもたちを守るために親として、出来るだけの防御をしてきました。しかし、「こんな生活をいつまで続けることが出来るのだろうか」と、徐々にその思いは強くなり、「国が避難をさせてくれないのなら、自主避難しか道はない」と、考えるようになっていきました。

郡山は、すでに子どもたちが安心して暮らしていただける場所ではありません。でも国は、福島県民の命より、経済を優先させました。そのことに、どれだけの人達が深く傷つき、悲しんでいることでしょうか。

「やはり、自主避難しかない。」

それが、私達夫婦が出した結論でした。

しかし、事は簡単ではないか、たのです。

自主避難がきつい理由の一つが、「お金」の問題です。

現在、夫は

業を主とし

た自営業を営んでいます。三十三才の時に脱サラして、早や十五年が経ちました。この十五年もの間、夫は家族のために、一生懸命働いてきてくれました。

でも、この不景気のため、生活は決して楽とは言えません。貯蓄も難しい状況です。

若い人でさえ、就職が難しいと言われる昨

今、もうすぐ五十才に手の届く夫が今の仕事を辞めて、他県へ行つて、果たして仕事が見つかるのか。たとえ、運良く見つかったとしても、現在の収入を得ることは、ほぼ不可能でしょう。夫婦で働いたとしても、今の収入に追いつけるかどうか。答えは、「否」と言わねばなりません。

万が一、仕事が見つからなければ、雀の涙ほどの貯金は、すぐ底をついてしまふのは明らかです。そうなったら、私達家族は、どう

すればいいのでしょうか。

また、自主避難によって失うものは、夫の仕事だけではありません。現在、中学

生の子どもたちから、慣れ親しんだ学校生活や今まで大切にしてきた友人達をも奪うことにはなりません。

その中学 の子どもたちの学年では、この夏休みの間に三人の子どもたちが転出してしまいました。そのうちの一人の男の子のお母さんと、夏休みに入る前に話をする機会があります。

ました。その方は、御主人が東京へ単身赴任をされていられるのもあって、思い切って避難するとおっしゃっていました。でもそれを息子さんに伝えたら、なんで俺だけ？ みんな避難なんてしてないのに！！と言われたそうです。

きつと息子さんは、仲良しの友達と離れ離れにならなければならぬ寂しさや、避難という形で転校しなければならぬ理不尽な思いで、心が張り裂けそうだったのではないで

しょうか。

自主避難した子どもたちの多くは、この理  
不尽な気持ちを抱えたまま、転校していつた  
に違いありません。確かに、「転校の自由」  
はあるかもしれませんが、それは決して、  
子どもたちが自ら望んだことではないのです。  
私は、子どもたちが産まれてからずっと、  
子育てにウエイトをおいてきました。愛する  
子どもたちの成長を、そばで見守っていたか  
らからです。少なくともそれは、子どもた

ちが高校を卒業するまでは、この郡山の地で  
叫うはずでした。

でも、原発事故が起きてしまった今は、郡  
山での子育ては望めなくなりました。大好き  
な郡山だけれど、大好きな福島だけれど、も  
う決して安心して住むことはできないので  
す。だからと言って、自主避難もままなりませ  
ん。親として、本当に情けなく、悔しい思  
いでいっぱいですが、身動きできないのが現状  
なのです。

このままでは、大切な、大切な子どもたちの命が脅かされてしまいます。

どうか、自主避難をいたくてもできずに苦しんでいる多くの親の心情をお汲み取り頂き未来ある子どもたちの笑顔を守るために、勇気を持って御英断下さいませよう、切にお願い申し上げます。